

鹿島神社 深谷市下手計 1145

創立年代は不詳だが、天慶年代（10世紀）平将門追討の際 六孫王源経基（ろくそんおうみなもとのつねもと）の臣竹幌太郎（たけほろのたろう）がこの地に陣を敷いて当社を祀ったと伝えられる。以降、武門の守りとされ源平時代に竹幌（たけほろ）合戦に神の助けがあったという。祭神は武甕槌命（たけみがづちのみこと）で本殿は文化7年（1810）に建てられ千鳥破風向拝付（ちどりはふうこうはいつき）で、拝殿は明治14年に軒唐破風向拝付（のきがらはふうこうはいつき）で渋沢栄一の揮毫の扁額があり入母屋造りである。

境内の欅（けやき）はかつてのご神木だが、今は空洞で底に井戸があり天然記念物に指定され切株からは湧水が出て渋沢栄一の母「栄（えい）」はこの神水を汲みらい病患者の背を流したと伝えられている。また、参道右手の石碑は尾高淳忠の偉業をたたえた頌徳碑（しょうとくひ）が明治41年境内に建立され上部の題字は徳川慶喜によるもの。

ひっそりと佇んでいる神社だが見所満載です。

（境内案内板より）



案内の石柱も苔むしてきている



参道の周りは畑



拝殿



拝殿、奥宮



拝殿



拝殿扁額は栄一の直筆



彫刻と瓦



かつてのご神木



湧水(神水)が湧き出ている井戸跡



淳忠記念碑説明書 上部題字は慶喜直筆



鹿島神社説明版